



会員様紹介コーナー

このコーナーでは、街ing本郷の活動を支えてくださっている会員のみなさまのお仕事と、街ing本郷や地域とのかかわりについて紹介していきます。

第2回目は葬儀会社「杉元」さんです。

葬儀会社「杉元」では、1902（明治35）の創業以来110年あまり、本郷に拠点を置き事業を行ってきました。24時間体制で葬儀の相談に応じ、葬儀を執り行っています。

「杉元」では、日頃執り行う葬儀の質を高めることを大切にしているそうです。葬儀を「祖先との再契約の場」ととらえ、残されたご遺族の方がご先祖と心を通わせ、次の新しい生活につなげることが出来るような機会になればと願っておられます。そのような葬儀を社員の皆さんが提案できるよう、葬儀のあとに反省会を行い研鑽（けんさん）に努めているそうです。

2008（平成20）年に代表取締役社長に就任した池田弘さんは、合理的な流れ作業のような近年の葬儀に違和感を持っていました。昨今の家族葬、一日葬、茶毘（だび）のみの直葬と、費用はさることながら葬儀の簡素化の風潮はあまりにさびしい、何か違うのではないかと憂慮（ゆうりょ）しておられます。

そして葬儀とは、「亡くなった人がどこに行くのか、初めて考える場」。人の死に向き合い、残された人が故人とのこれまでをしのぶとともに、新たな絆を感じることで、「生きること」に思いをはせることになれば、と願っておられます。祖先のこと、死後の世界をより強く感じられる場所で大切な時間を過ごしてもらいたいと云う思いから、お寺様にお願いし、お檀家（だんか）さんの葬儀は本堂・ご本尊の前で執り行うことを志向しておられるそうです。



2011年の東日本大震災で、多くの方が「亡くなること」に直面し、池田さんは「生きること」とは何かについて、より深く考えるようになったといいます。そこで、人々との絆や思いやりを再確認するとともに、自然や地域との共生の大切さを感じるようになったそうです。

ちょうどそのころ、「いちよう祭り」への出店がきっかけで、街ing本郷とのつながりが生まれます。池田さんは「街の商店主さんたちが中心となって、商売ではないところで、学生さんや地域の人たちを巻き込んで活動していることに魅力を感じている」と話してくださいました。少子高齢化の中での地域の人どうしのつながり、「和」をつくることへの期待が大きいといいます。「杉元」でも地域との関わりを大切にしており、先日の桜木神社例大祭など、地域のイベントには社員の皆さん総出で参加しています。

創業以来ずっと本郷で営んでいることもあり、古くから「杉元」と地域とのつながりがあります。2代目の勝太郎氏は15歳の若さで家業を継ぎましたが、東大赤門前の古本屋さんで行われていた宗教学に関する勉強会に参加し、東大の先生や本郷近くのお寺のお坊さんとの交流があったといいます。勝太郎氏は専門書を読みながら、読書会を通して葬儀についての造詣（ぞうけい）を深めていきました。

「杉元」は、本郷での長い歴史を受け継ぎながら、人と人、人と地域のつながりをとても大切にしていってほしいです。

今回の取材にあたり、「杉元」代表取締役社長の池田さまをはじめ、職員の皆様にお世話になりました。ご協力ありがとうございました。

（東京大学大学院教育学研究科 牧野研究室）

株式会社杉元

所在地：文京区本郷 5-7-7

TEL：03-3813-5601

アドレス：www.hana-sugimoto.com



書生紹介コーナー 順次紹介していきます。



上島と申します。東大の院生で、今年5月に書生に変わりました。学部生の頃は百合丘(神奈川県川崎市)に住んでいました。大学からは遠いのですが、有名な釣堀が近くにあり、その釣堀に徒歩で通いたくて、上京して最初の住まいをそこに決めました。地域の魅力に動かされた体験です。本郷という地域の魅力で人を動かしたくて、書生になりました。

東京大学情報学環・学際情報学府のR・キリと申します。本郷五丁目に住み始め、「本郷が好き」というきっかけで、「街ing本郷」と出会いました。

五月祭委員会をやりながら、微笑を作ることに打ち込みたいと思って、本郷近所の夏祭りにも参加しました。浴衣を着ていた子供たちの姿は、この夏一番美しい風景になりました。大型販売業者が並び立つこの時代、商店街を一工夫して、街の活力を満たすことは、私が貢献したいところ です。

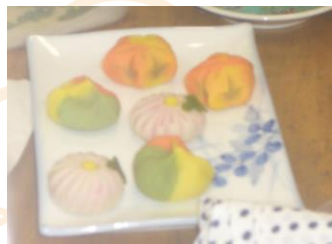


書生生活 動画の紹介

「書生生活」の活動を紹介します。動画が完成しました！書生さんの生活や夏祭りの様子が魅力的に映っています。詳しくは「書生生活」ホームページをご覧ください。

活動紹介コーナー 和菓子作りワークショップ

11月11日(土)、文京区男女平等センターにて、「はじめての練り切りづくり」ワークショップが開催されました。和菓子店「喜久月」の店主で、街ing本郷の副理事でもある栗田洋さんが講師をつとめ、20代から70代までの女性14名様に参加いただきました。



ワークショップでは季節の練り切りを3点仕上げ、美味しいお茶とともにいただきました。参加者からは「指先だけで練り切りを作るのはとても難しかったが、面白かった」「季節感のある和菓子は美しかった」といった感想をいただきました。

編集後記

10月25日、私設の地域スペース「みちこはうす」(文京区関口)にて開催された、第2回ほのぼの交流会「秋の収穫祭」に学生4名で参加しました。テーブルいっぱいの秋の味覚をいただきつつ、シニアの方々と楽しいひと時を過ごすことができました。また、文京区消費生活センターの方に出席講座をしていただきました。(堀本)

